

みどり保育園

2022年 8月

ほけんだより

7月は、早い梅雨明けとともに、最高気温 30 度を超える暑さと大雨、それにコロナウイルス感染第7波と体調を崩しやすい状態でした。例年ならば、8月は、夏休みにお盆休み、海に山にと行楽を楽しみ、子どもたちとの思い出づくりができる季節なのですが、今年もコロナウイルスとどう付き合っていくかが課題となりそうです。コロナウイルス感染対策をご家庭でも今一度ご配慮いただきますようお願いいたします。

※コロナウイルス感染については、みどり保育園ラインにおいて、コロナ陽性者発覚で随時ご報告しております。

当園では、兄弟姉妹で登園されているご家庭が多く、一人が感染すると、家庭内で感染するので、お休みが長くなり、登園児が少ない状態でした。それでも見守り保育を行うとともに、感染拡大をしないように、感染対策の強化や保育園内の一斉清掃やおもちゃの消毒を行いました。保護者の皆様におかれましても、発熱の症状がある場合は病院受診を早めに行って頂く、無理な登園をしないなどご協力頂きました。

コロナ陽性者となったお子さまが、隔離療養期間を終え、みんな揃って、元気に保育園で楽しい時間が過ごせますよう願って、努力いたします。

コロナウイルス感染対策

★手洗い、うがい、消毒

★マスクの着用

★3密を避ける



気を付けよう熱中症

熱中症とは・・・体温が上がり、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温の調節機能が働かなくなったりして、体温の上昇やめまい、けいれん、頭痛などの様々な症状をおこす病気です。

<起こりやすい場所>

- ・気温が高い 湿度が高い
- ・風が弱い 日差しが強い
- ・照り返しが強い
- ・急に暑くなった

<予防法>

- ・暑さを避ける
- ・服装を工夫
- ・こまめな水分補給
- ・暑さに備えた体づくり

<こんな人は特に注意>

乳幼児や高齢者は熱中症をおこしやすい

乳幼児は大人よりも新陳代謝が活発で体温が高く、体外に汗を出す汗腺の発達が未熟のため、乳幼児は体温のコントロールがうまくできません。そのため、外出時には、水分補給や服装に気を付けましょう。顔が赤くなったり、汗をかいている時には、すぐに涼しいところに移動を！

年をとると、体内の水分割合が少なくなり、高齢者は暑さやのどの渇きを感じにくいもの、そのため熱中症になりやすい、加えて心機能や腎機能が低下していると症状が重症しやすい。

<熱中症の症状の見分け方>

重症度Ⅰ

現場で応急処置で対応できる軽度
めまいや顔のほてり
筋肉痛や筋肉のけいれん

重症度Ⅱ

病院への搬送を必要とする中等度
体のだるさや吐き気



<対処法>

- ・涼しい環境に移す
- ・脱衣と冷却
- ・水分と塩分補給

重症度Ⅲ

入院して集中治療の必要性のある重度

体温が高い 皮膚の異常
呼びかけに反応しない まっすぐ歩けない
水分補給ができない

★その他 汗のかきかたがおかしい